

読み聞かせのポイント

—小学校でおおぜいの子どもたちに読む方へ—

東村山市立図書館発行 2008年

子どもにとって読み聞かせとは

よい絵本は、心の糧となる豊かな言葉や物語、魅力的な絵がたくさんつまっています。子どもたちは、主人公に共感したり、未知の世界に思いを寄せたりしながら、心を開放して絵本を楽しみます。特に、仲間と一緒に味わった楽しい読み聞かせの体験は、読んでくれた大人への信頼感と本に対する興味を子どもたちの心に残してくれるでしょう。

心がまえと注意点

1. 絵本が持つ楽しさやよさを子どもたちに伝えたいという気持ちを忘れずに行いましょう。
2. 読み手の芸を披露したり、何かを押し付けたりする場ではありません。
3. 学校という公共の場でやることを意識して、著しく宗教色の強い本、思想のかたよりのある本は、さげましょう。
4. 子どもたちにも様々な個性があり、好み、興味が違います。似たような内容の本ばかりにならないように配慮しましょう。
5. 他の人と組んで読み聞かせをする時は、事前に相手が何を読むのかを確認しましょう。また、これまでに読んだ本の記録をつけて、内容が重ならないように注意しましょう。
6. おおぜいの子どもたちの前での読み聞かせは、家庭での読み方とは別の注意が必要です。準備はしっかりしましょう。
7. 読み聞かせをしたからといって、何かの効果がすぐあらわれるものではありませんし、見返りを求めるものでもありません。一緒に楽しんだ時間を大切にしましょう。

ようこそ絵本の世界へ

絵本には、**創作物語、昔話、詩・言葉遊び、科学もの**などいろいろな種類があります。市立図書館では、子どもたちに質の高い絵本を手渡すために、1冊ずつ内容を確認かめて選んでいます。子どもも大人も、わくわくドキドキしたり、静かな気持ちになったり、心動かされる素敵な絵本がたくさんあります。どうぞ読み聞かせの活動をきっかけに、深くて広い絵本の世界を楽しんでください。

絵本のタイプ

* 起承転結のはっきりした物語絵本（初心者におすすめ）

『11ぴきのねこ』

馬場のぼる／著・こぐま社 など。

素直に読んでいくだけで、子どもたちがお話の世界に入ってくれるので安心です。

* 子どもとのやりとりのある本

『ねえ、どれがいい？』

ジョン・バーニンガム／さく・まつかわまゆみ／やく・評論社 など。

問いかけの言葉に子どもたちが声をあげて答え、盛り上がります。読み手がうまくリードしないと収拾がつかなくなることもあるので、注意してください。

* 繰り返しを楽しむ本

『おおきなかぶ』

内田莉紗子／再話・佐藤忠良／絵・福音館書店 など。

子どもは、同じフレーズを何度も聞くうちに、次を予想して楽しめます。繰り返し部分は飽きないようにメリハリをつけて読むとよいでしょう。

* 字のほとんどない本

『かようびのよる』

デヴィッド・ウィーズナー／作・絵・当麻ゆか／訳・徳間書店 など。

子どもは絵を読んでいます。絵を見せる時間やページをめくるタイミングに気をつけてください。

* ナンセンス絵本

『にゅーっするするする』

長新太／作・福音館書店 など。

間のとり方、緩急のつけ方などに注意します。読み手がその本をおもしろいと思う気持ち、聞き手を巻き込んで楽しもうという気持ちが何より大事です。

選ぶポイント

1. 自分が共感できる本を選びましょう。
2. その本が自分の個性に合っているか、仲間の人に相談してみましょう。
3. 話がわかりやすく、文章も簡潔、絵もよいものを選びましょう。テーマ（戦争、人生訓等）先行になると、読み手の大人だけが自己満足して終わりがちです。聞き手の理解力をよく考えましょう。
4. 本の大きさも大事です。小さい本は、人数の多い読み聞かせには向きません。
5. 絵がはっきりしていて、遠目のきく本を選んでください。（本を置いて離れた所から見たり、仲間の手に本を持ってもらったりして試してください。）
6. 一つの絵に対して文章の量が多すぎると聞きにくいので、絵と文の割合が適当なものを選びましょう。

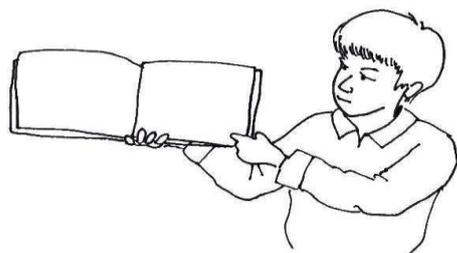
絵本の読み方

本番の前に

- ・ 声に出して練習しておきましょう。
- ・ ページは開きやすくなっていますか？
- ・ いたずらがきやこわれているところはありませんか？
- ・ 読みにくい言葉や読みにくい場所はありませんか？

本の持ち方

- ・ 本がぐらつかないように、しっかり持ちましょう。
- ・ 持つ角度は、まっすぐか前に傾き加減にします。後にそらせると、読みやすいのですが、聞き手からは紙面が反射したりして見づらくなります。



めくり方

- ・ 表紙→見返し→タイトルページ→本文と順にめくっていきます。本文が終わった後も、本文→見返し→裏表紙と順に見せて終わります。表紙やタイトルページでは、書名を読みます。
- ・ ページをめくる手で絵が隠れないように注意してください。
- ・ お話の流れによって、素早くめくったり、めくりながら言葉をつないだり工夫してください。

読み方

- ・ お話の雰囲気や流れを大切に読んでください。わざとらしい声色や身振りは必要ありません。
- ・ 言葉のないページ、言葉の少ないページもゆっくりと絵を見せてください。絵が物語っていることもたくさんあります。

読み聞かせの場所

- ・ 教室で行う場合は、机を後ろに下げて、子どもたちに床にすわってもらうとやりやすいです。
- ・ 外光が強い時は、絵本が光らないようカーテンを引いてください。

さあ、本番です

- ・ 子どもたちはこちらを見えていますか？
- ・ 絵本についての前置きはいりません。すぐに絵本を読んでください。
- ・ 読み終わった後、子どもたちに感想を聞かないでください。余韻を楽しんでいる子もいます。

読み聞かせの後で

- ・ 1回だけの読み聞かせで一喜一憂することはありません。
- ・ グループで記録をつけましょう。
【記入する内容】日付、読み手、読んだ本、反応等

読み聞かせ情報コーナー

読み聞かせに向く本のリスト

市立図書館各館に読み聞かせに向く絵本と、ブックリスト（基本、学年別、テーマ別）、読み聞かせの参考図書を集めたコーナーがあります。どうぞご活用ください。また、児童担当職員が本選びのお手伝いをしますので、お気軽にご相談ください。